

## 米子市公会堂の耐震診断結果と今後について

2010.7月議会 石橋佳枝

1. 米子市公会堂は、プロの音楽家も認める音響の良さ、舞台芸術に必要な緞帳吊りもののバトンなどの舞台設備、舞台の広さや奥行き、そして1,120名収容出来るキャパシティ（文化HメインHは672名）、2本の国道の交わる町の中心にあり、車でも公共交通でも便利が良いなどの立地条件など、米子市の他のホールでは代わる事の出来ない存在です。

長い間市民の文化芸術活動、教育活動の拠点として、社会活動の拠点として、重要な役割を果たして来ました。これは米子市の他のホールでは代わることが出来ません。

ホールは文化をつくり、文化はホールをつくる、米子市公会堂は市民の宝です。今後も米子のまちづくりの中心のひとつとして、米子の発展に不可欠な存在であると考えます。

この米子市公会堂の役割についての市長の見解を伺います。

2. 耐震診断については、すでに先に5人の方が質問されました。私からは次の点についてお伺いしたいと思います。  
(〇〇のついて答弁もありましたが、私からも要望いたします。)

(先の耐震診断では、4次までの4段階ある調査の内2次まで、部分的には3次までの調査が行われたということです。しかし公会堂大ホールのような特殊な建物は、ただ四角い役所や学校と違って、複雑な構造を総合的多面的に診断するために4次までの調査が必要との建築家の意見を聞いています。この4次調査まで進めてほしい。そのことを要望いたします。)

公会堂耐震調査についてI s 0.15 という衝撃的な数字が発表され米子に激震が走りました。しかし西部地震に耐えた公会堂がなぜ？という思いとともに、耐震調査にたいしての疑問もどんどん話題となり、市民の疑問は膨らんでいる、その疑問を解くためにも、4次調査が必要と思います。強く要望します。)

また耐震補強の工事費についても、全国広く探せばもっと安く上がるという建築家の声も聞きます。

日本建築学会中国支部から5月25日に野坂市長宛てに米子市公会堂の

保存に関する要望書が出ています。そのなかで中国支部は出来る限りのご協力をさせていただくとおっしゃっています。このご協力も頼りに十分な検討を要望します。

3. 米子市公会堂は現在地での改修、存続を求めます。今後取り組まれる耐震診断の結果と合わせての検討となると思いますが、公会堂の建物自体は老朽化・劣化していないと、先の桑本総合設計事務所の診断結果にも出ていると、建築専門家のご意見があります。村野藤吾氏自身が改修も手掛けた歴史的文化的な価値のある優れた作品でもあります。改修し存続することを求めます。市長の答弁を求めます。

4. 今後の検討、改修は市民参加で進めて頂きたい。  
米子市公会堂は建設時も市民が一日1円募金などして市民の参加で生まれ、1980年の改修も、80を超える市民団体、個人の参加で進め、プロも認めるすばらしいホールとなりました。

短期間に4万1千を超える(昨日今日で4万4千筆に達するそうです)署名を集めた市民の声を良く聞き、市民とともにホールの今後を考えるべきです。市長の答弁を求めます。